



2022年1月24日

森と海の自然科活動案内・テーマ「川里」

離宮八幡宮から天王山、大山崎瓦窯跡等 大山崎散策

今回のコースは山崎の離宮八幡宮から三川合流の展望、大山崎瓦窯跡見学、枚方大橋から御幸橋間の渡し場跡を巡り、桂川・宇治川・木津川を渡り石清水八幡宮まで散策する予定でした。残念ながら、大寒のおり気温が低く、途中の見学にも時間を費やしたため活動を切り上げ、三川を渡り石清水八幡宮までの散策は次の機会に委ねました。寒い中でしたが、歴史に思いを馳せ、学びのある活動でした。

日時 2022年1月20日(木)
集合 阪急大山崎駅改札口集合 10時
行程 阪急大山崎駅・西国街道・離宮八幡宮・山崎の渡し跡・JR山崎駅前・山崎院跡・宝積寺・展望地・旗立松(昼食)・山崎聖天・大山崎瓦窯跡・山崎津跡・西国街道・阪急大山崎駅(解散)

参加者

14名

離宮八幡宮は、貞観元年(859)の創建。石清水八幡宮の元社として知られています。嵯峨天皇の離宮があったことからこの名がつけられました。神官が荳胡麻(えごま)の油絞り機を発明し、荳胡麻油の製造が始まりました。当初は、対岸の石清水八幡宮の灯明用の油として、神社仏閣に奉納されていましたが、次第に全国へと広がり、幕府・朝廷の保護の下、大山崎油座としての油の専売特許を持ち栄えました。今も油の神様として製油業者から一斗缶で油の奉納がされています。伏流水が石清水の名水として湧き出ていました。

離宮八幡宮から新幹線路を潜り、山崎の渡し跡に行きました。堤防から桂川・宇治川・木津川、川向うは最終目的地の八幡市・石清水八幡宮がある男山が見えました。

来た道を戻り、石碑が建つ山崎院跡を訪れました。高僧行基が、神亀2年(725)に大山崎から八幡市橋本までの山崎橋を架け、橋の管理と行基の教えを広めるため、山崎院を建立しました。近年の発掘調査で、唐草文彩色壁画片など、山崎院が色鮮やかな壁画で装飾されていたことを物語る貴重な遺物が出土しました。

天王山の登山口への坂道を登る。途中宝積寺で休憩。寺伝によると、神亀元年(724)、聖武天皇の勅願により行基が開基したと伝えられています。山崎合戦の後、秀吉が一夜で建立したと伝わる三重塔「一夜の塔」が重要文化財です。

ここから急な登山道です。展望地で三川合流の地を展望。淀川河川公園背割り堤も見えました。桜の季節ならピンク色に染まるのでしょう。旗立松地点で昼食。ここで、「いざ天王山!」の登山シールを買いました。

降りの途中、妙音山観音寺(山崎聖天)に立ち寄りしました。境内の馬酔木にメジロがいて、近くに寄っても一生懸命に筒状の花の蜜を吸う姿に、ひと時小春日和に浸りました。

大山崎瓦窯跡を見学しました。平成16年(2004)の宅地造成に伴う発掘調査で明らかになりました。12期の瓦窯が発見され、8世紀末から9世紀にかけて、平安京造営に必要な瓦を生産した遺構です。遺構は埋め戻して保護されています。

最後に山崎津跡を訪れました。昭和30年(1988)マンション建設に先立ち発掘調査が行われました。大山崎瓦窯で生産された大量の瓦を山崎津で船積みし、平安京へと運ばれたと思われます。西国街道と京街道を結ぶ水上荷送の港として旅人が賑わい、栄えていたのでしょう。

紀貫之が赴任先の土佐から都に戻る船旅を書いた「土佐日記」に、ようやく京に近い山崎津に帰ってきたことを喜んで書いています。

十一日。雨いささかに降りて、やみぬ。かくてさし上るに、東(ひむがし)のかたに、山の横ほれるを見て、人に問へば、「八幡の宮」といふ。これを聞きて、喜びて、人々拝み奉る。

山崎(やまざき)の横見ゆ。うれしきことかぎりなし。

日差しが暖かいと思ったら、急に風が出て雪がちらつき、天気は刻々と変化します。案内の壺三さんは、淀川の河原を歩いて渡ることを体感してほしかったが、河川敷は風が強く予定より遅くなったので渡るのは止めると判断しました。残念な方もホッとした方もいたと思います。阪急大山崎駅で無事解散しました。